

わかくさ学級 生活単元学習・総合的な学習の時間 学習活動案

日 時 令和7年11月21日(金)

5校時

桜町小学校

活動グループ名	対象	授業者
「とりハン」	7名	工 藤 礼 花
「ワクドキものづくり」	7名	塚 部 精
「アトリエハッピー」	6名	佐 藤 ゆ か り
「フラベジマッシュ」	7名	齋 藤 ま ど か
「ぶんぶん ファーブル昆虫記」	8名	佐 藤 彩 優 里 馬 場 智 彬

1 単元名:「ひみつきちプロジェクト2」

- A:「とりハン」
- B:「ワクドキものづくり」
- C:「アトリエハッピー」
- D:「フラベジマッシュ」
- E:「ぶんぶんファーブル昆虫記」

2 単元を通して子どもたちが学ぶであろうこと

わかくさ学級の中庭をさらに楽しい場所へと発展させることを目標に、児童は5つのグループに分かれて活動を展開する。繰り返しの試作や改良を重ねる中で、一人ひとりが「やってみたい」という思いを実現する楽しさを味わい、その実現に向けて多様な方法があることに気付いていくとともに、課題解決に向けて自分の役割を見出し、仲間と協働的に関わりながら活動を進める中で、試行錯誤を繰り返して学びを深め、得た経験を日常生活へと生かそうとするようになる。

3 育つと考えられる資質・能力及び評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。	実社会や実生活の中から問い合わせを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする。
①中庭をみんながさらに楽しく使える場所にするために、いろいろな方法があることを理解している。 ②活動を通して調べたり考えたりしたことについて、相手意識や目的を明確にして活動方法を考えたり、適切な方法で調べたりすることができる。 ③材料を集めることや現状への理解は、繰り返しの試作や、他教科と結び付けての探究的学びを重ねた成果であると気付いている。	①各グループが目的をもって活動を行うことから、課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②中庭をさらに楽しく活用するために、必要な情報や手段を自ら選び取り、調べたり聞いたりするなどして主体的に収集している。 ③収集した情報を、取捨選択したり、複数の情報や考えを比較したり、関連付けたり焦点化したりしながら、解決に向けて考えている。 ④中庭での楽しみ方を、伝える相手や目的に応じて考えをまとめ、適切な方法で表現している。	①自己の取り組みを振り返ることを通して、さらに楽しい中庭を作ろうと探究活動にすすんで取り組もうとしている。 ②さらに楽しい中庭を作るために、友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に向けて取り組もうとしている。 ③課題解決に向けた自分の取り組みや状況を振り返り、さらに楽しい中庭を作るためにできることを積極的に考え、粘り強く取り組もうとしている。

4 単元の価値・児童に期待したい学び

※単元計画・研究の手立てに同様の内容を記載。

5 研究の手立て

○子ども主体の学習になるための手立て

(1) 必然性のある材

今年度は、4月に昨年度の総合的な学習の時間の振り返りを行った。児童からは、ものづくりが楽しかったことや虫を捕まえるのが楽しかったこと、中庭で完成パーティーとして料理や焚火をしたことが印象に残っているという意見が多く聞かれた。また、昨年度行った「ひみつきちプロジェクト」の活動を引き続き体験したいという児童も多かった。

こうした児童の振り返りと希望を受け、今年度も引き続き「ひみつきちプロジェクト」に取り組むこととした。

昨年度の経験をもとに、今年度何について探究していくかを子どもたちと相談した。その結果、わかくさ学級にある中庭をさらに楽しい場所にしたいという意見が多く出てきた。楽しい場所にするためには、どうしたらよいか話し合った。そして、子どもの願いのもと、今年度は以下の5つのグループに分かれて活動することにした。① 鳥の家とハンモック作り② アトリエハッピー(タイダイ染め Tシャツづくりなど)③ 昆虫の家づくりと飼育④ 畑・きのこづくり⑤ アスレチックづくり

鳥の家やアスレチックづくりは、廃棄木材や廃材を活用したものづくりを通して、環境への意識を高めながら、安全で楽しい空間づくりを目指している。畑・きのこづくりでは、育てたものを調理に使ったり、身近な植物を活用したものづくりに挑戦したりするなど、生活とつながる学びが広がっている。デザイン部では、タイダイ染めなどの活動を通して新たな表現やものづくりの楽しさを体験する。昆虫の家づくりと飼育は、生態系や生命について深く学ぶ機会となる。

中庭を教材として、児童が学びの連続性を感じながら「みんながさらに楽しく使える場所にする」ことを目標に、昨年度を越える達成感と役立ち感を得られるよう支援していく。

昨年度行った「ひみつきちプロジェクト」は、子どもたちのワクワク・ドキドキするような要素が詰まつた活動であった。今年度は、その経験を踏まえ、より多様な活動や役割分担を設けることで、一人ひとりが主体的に関わり、協力しながら中庭をさらに魅力的な場所にしていくことを目指している。そうした中で、児童からは、中庭ができたらパーティーをしたいという希望が出ていたほか、昨年度のように焚火やマシュマロをもう一度楽しみたいという声も聞かれ、さらに材への興味関心が高まっている。他グループの活動を見合い褒め合うなど、他者への意識が高まっていくことも想定ができる。活動を進める中でのひらめきや思いもよらないアイデアを大切にし、日々魅力的な活動になることを期待している。

(2) 子どもと共に追究する一人の教師としてのあり方

材を「中庭」として設定し、5つのグループに分かれて活動を始めた子どもたちは、それぞれのテーマに応じた探究を進めている。教師も児童と同じ視点に立ち、材料や道具の使い方を実際に試しながら、想定されるつまずきや課題を共有し、活動の質を高める手立てを考えている。素材の扱いや構造、安全性などについて子どもと共に検討する中で、教師自身も材の可能性や面白さを再発見していく。

また、活動の自由度が高まることにより、子どもたちのアイデアはより個性的かつ大胆になってきている。想いが膨らむ一方で、実現が難しい構想も出てくるため、教師は実現可能性や安全面、スペース・時間的制約などを丁寧に共有し、具体的にイメージできるよう支援する。制作活動が多様化する中、環境整備や道具の準備、安全確認の工夫を行い、誰もが安心して探究に参加できるよう「場」を保障していく。

児童の想いに寄り添いながら、共に考え、共に試し、共に悩み、そして共に喜ぶ——こうしたプロセスを重視することで、「やってみたい」が実現していく探究の面白さを、教師自身が体現する存在となることを目指す。

○探究的な学びに向かうための手立て(水色のカード)

※『カリキュラム・マネジメント表』及び『7 「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス』参照

○協働的な課題解決に向かうための手立て(黄色のカード)

一人ひとりが想いや願いをもって関わる協働の場をつくる

グループ活動においては、相談や共同作業を通して、子ども一人ひとりが自分の想いや願いを言葉や行動で表現し、仲間と共有しながら活動を進めることが求められる。そのため、各グループに一人の教師がファシリテーターとして関わり、対話の橋渡しや意図の可視化、意思決定の支援などを行っていく。試作や調整を繰り返す中で、「もっとこうしたい」「こうすればできるかもしれない」といった前向きなつぶやきが生まれ、課題に向かう探究がより深まっていくことが期待される。教師はそのつぶやきを拾い、問い合わせことで思考を促し、協働による課題解決が自然に展開されるよう支援する。子どもたちが自分の想いに自信をもち、仲間の想いにも関心を寄せながら、対話と実践を重ねていくことで、「つくること」を通して「ともに考える力」も育っていく。

6 キャリア・未来デザイン教育の視点から

	「キャリア・未来デザイン教育」の視点	予想される子どもの姿
①	人間関係・社会形成能力(協力・協働) ※他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等	・グループ内の子どもも同士で、目標の相談をしている。 ・目標に向かって、作業を分担している。 ・学校主事、材木屋等への質問を積極的にしている。 ・他グループと情報共有している。 ・それぞれの材の魅力を、他グループに発信している。
②	自己理解・自己管理能力(主体性・思考力) ※自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等	・自分の作り方等を決定している。 ・中庭の魅力発信に意欲的になっている。 ・学校主事、材木屋等への質問等を積極的にしている。 ・緊張場面でもどのように関わればよいか考え行動している。
③	課題対応能力(課題発見・分析・解決) ※情報の理解・選択・処理など、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善等	・課題や活動結果から、何を目標にすべきかを考えている。 ・得た情報から、具体的な取り組みを考えている。 ・学校主事、材木屋等から聞いた話を適切にまとめている。 ・自分達のグループの魅力発信の計画を具体的に立てている。
④	キャリアプランニング能力(主体性・役割理解・社会貢献) ※学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性への理解、将来設計、選択、行動と改善等	・グループ活動で自分の役割を見つけている。 ・グループでの探究活動が、将来に役立つと理解している。 (振り返り等) ・外部からのアドバイスを受け、改善策を考えている。

7 「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス

世田谷区では、児童・生徒の実態に即した「せたがや探究的な学び」を通じた授業改善に取り組んでいる。世田谷区の児童・生徒の実態は、学力は定着しているが、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志に課題が見られる。学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、将来、自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していく必要がある。

	探究的な学び 4つのプロセス	予想される子どもの姿
1	課題を見出し、把握している	・中庭をみんなが楽しく遊べる場所にするために、何をすべきかを考えている。 ・作る物に対して様々なアドバイスをもらい、今後何をすべきかを考えている。 ・相手が何を求めているかを知り、何をすべきかを考えている。 ・他のグループに、自分たちが作った物の魅力を広めるために、何をすべきかを考えている。
2	課題解決の方法を考えている	・繰り返し試作することで、よりよい物を作り上げることをめざす。 ・学校主事や材木屋さんの話を聞き、自分たちの活動に生かす。 ・どんな方法で紹介すれば自分たちが作った物の魅力が伝わるかを考えている。
3	協働して学んでいる	・自分たちが作る物を、意見を交わしながら試行錯誤して作っている。 ・学校主事や材木屋さんが協力してくれるありがたみを感じながら作り上げている。 ・自分たちが作りたい物を様々なやり方を試し、協力して作り上げている。 ・作った物の魅力を伝えるための方法を協力して考え、発信ツールを作成している。
4	学びを振り返り、次につなげている	・試作した後、今後どのように学習を進めていくか考える。 ・成功や失敗を記録し、さらによくする方法を考える。 ・学校主事や材木屋さんに話を聞いた後、その情報をどのように活用するか考える。 ・この経験を、次年度どのように生かしていくか考える。

8 単元について(単元計画・評価の観点)

※別紙参照

9 本時の展開

※別紙本時案参照